

秋田公立美術工芸短期大学

目 次

I	選択的評価事項に係る評価結果	2-(1)-3
II	選択的評価事項の評価	2-(1)-4
	選択的評価基準B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	2-(1)-4
<参 考>		2-(1)-9
i	現況及び特徴（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-11
ii	目的（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-12
iii	選択的評価事項に係る目的（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-13
iv	自己評価の概要（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）	2-(1)-14
v	自己評価書等	2-(1)-15
vi	自己評価書に添付された資料一覧	2-(1)-16

I 選択的評価事項に係る評価結果

秋田公立美術工芸短期大学は、「選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」において、目的の達成状況が良好である。

当該選択的評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- 当該短期大学の個性に富んだ機能を広く市民に提供し、多様化する生涯学習ニーズに対応するため、大学開放センター「アトリエももさだ」を設置するとともに、公開講座、市民講演会、ももさだアートスクール等を開催し、地域に多様な教育サービスを提供している。

II 選択的評価事項の評価

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

B-1 短期大学の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。

【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

(評価結果の根拠・理由)

B-1-① 短期大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が周知されているか。

当該短期大学の学則第1条には、目的として「広く地域に開かれた大学として、産業の発展に貢献することを目的とする。」と社会貢献について明示しており、正規課程の学生以外に対する教育サービスの目的については、「本学が市民等を対象に専門領域に関わる研究・教育活動を背景とした教育サービスを行うことである。」と自己評価書に説明されている。

当該短期大学は、地域に開かれた大学づくりを通じて、積極的に地域社会に貢献することを目的とし、平成8年に大学開放センター「アトリエももさだ」を開設し、美術系の短期大学として特色ある機能・知的財産を広く市民に還元し、多様化する生涯学習のニーズに対応している。

大学開放センターは、当該短期大学学則に基づき当該短期大学の附属機関として設置しており、教員が所長を兼務し、事務長以下所員10人は事務局総務課及び学生課の職員が兼務している。運営については当該短期大学専門委員会規程に基づき大学開放センター運営委員会が設置されており、平成20年度は、所長のほか教員5人が委員となり、管理運営や事業計画等について審議している。また、同センターの施設管理及びアートスクール等の事業運営は、財団法人秋田学術振興財団に業務を委託している。

教育サービスの形態として、公開講座（平成11年度～）、市民講演会（平成13年度～）、ももさだアートスクール等（平成12年度～）、「大学コンソーシアムあきた」等が主催する高大連携授業（平成16年度～）、社会人講座（平成17年度～）、連携公開講座（平成17年度～）を実施しており、内容は以下のとおりである。さらに、社会教育関係の活動として、科目等履修生規程、聴講生規程、研究生規程、外国人留学生規程に基づいて研究生等を受け入れている。

〔公開講座〕

全教員による開講を前提に、講座内容（実技系・講義系）の適正配分を考慮した3か年の開講計画を策定している。

講座名、内容、対象、開講日時及び定員は当該短期大学のウェブサイトや、秋田市が毎月2回全戸に配布している広報誌『広報あきた』のほか、講座の案内チラシ等を作成し、市内の各教育・文化施設等に配布して周知に努めている。

〔市民講演会〕

学長がコーディネーターとなり、各界を代表する講師を定期的に招き、市民を対象とした講演会を開催している。

講演会は、当該短期大学のウェブサイト、『広報あきた』、講演会の案内チラシ等により周知に努めている。

〔ももさだアートスクール等〕

美術系分野に関心を持つ市民に芸術・創作活動に接する機会を提供することを目的として、主に初心者を対象とした講座を開講し、秋田学術振興財団職員や卒業生を中心とした講師により、平成12年度より実施している。ももさだアートスクール等は年度ごとに計画しており、講座内容、対象、開催日、定員、受講料、教材費について『広報あきた』により周知に努めている。

〔高大連携授業〕

県内の大学等が連携・交流することにより、それぞれの教育・学術研究機能の水準を高めるとともに、その成果を地域社会に還元し、地域の発展に貢献することを目的として、平成17年3月に「大学コンソーシアムあきた」が設立され、その構成大学として当該短期大学も事業に参加している。高大連携授業の実施主体は「大学コンソーシアムあきた」、主催は秋田県学術国際部及び秋田県教育委員会である。大学及び短期大学の授業を受講する機会を設けることにより、高校生の学問への関心を高めるとともに、進路決定に役立たせることをねらいとし、「大学コンソーシアムあきた」が当該短期大学等に依頼して、高校生のために特別に企画する公開講座を開講しており、県内各高等学校へ受講生募集案内を配布することにより周知に努めている。

〔社会人講座〕

「大学コンソーシアムあきた」を実施主体とし、主に社会人を対象として専門知識・教養等について多様な教育機会を提供することを目的とする講座であり、当該短期大学の教員も講師を務めている。受講生募集案内の配布、ポスターの掲示等を「大学コンソーシアムあきた」に要請し、周知に努めている。

〔連携公開講座〕

実施主体は「大学コンソーシアムあきた」であり、県内の高等教育機関がその成果を地域社会に還元し、地域の発展に貢献することを目的とする講座として開講している。受講生募集案内の配布、ポスター掲示等を「大学コンソーシアムあきた」に要請し、周知に努めている。

これらのことから、計画や具体的方針が定められており、計画が周知されていると判断する。

B-1-② 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

〔公開講座〕

平成11年度では22講座、平成12年度では5講座、平成13年度では4講座、平成14年度では10講座、平成15年度では1講座、平成16年度では8講座、平成17年度では7講座、平成18年度では6講座、平成19年度では10講座を実施している。

また、講座終了後は受講生に対してアンケートを実施しているほか、平成19年度より3年間のスケジュールを作成し、講座の流れについて実習系、座学系の配分等を考慮した長期的展望を形成している。

〔市民講演会〕

平成13年度には10講演、平成14年度には8講演、平成15年度には10講演、平成16年度には2講演、平成17年度には6講演、平成18年度には3講演、平成19年度には1講演を実施している。

平成18年度第3回(10月)の「美短市民講演会」では、国際教養大学教授による講演「THE ORIGINS AND END OF ANTI-SEMITISM—反ユダヤ主義の発端と終わり—」(日本語通訳付き)を実施している。

〔ももさだアートスクール等〕

平成12年度には9講座、平成13年度には13講座、平成14年度には14講座、平成15年度には25講座、平成16年度には22講座、平成17年度には22講座、平成18年度には22講座、平成19年度では10講座を実施している。

平成20年度前期の同講座は、「ハンドメイドフェルト」、「陶芸」、「彫金」、「織り」、「ガラス」、「手作りBook シリーズ①」及び「手作り雑貨」の7講座を実施している。また、講座終了後には受講者にアンケートを実施している。

〔高大連携授業〕

平成17年度には教員22人による3講座、平成18年度には教員20人による3講座、平成19年度には教員22人による4講座を実施している。

平成19年度には、前期授業開講科目において「君に伝えたい！美術・工芸の魅力」、「かたちづくりの世界・パート1」、後期同科目において「造形表現の基礎（素描）」、「かたちづくりの世界・パート2」を、それぞれ教員2人が担当して実施している。開講科目は、当該短期大学の雰囲気を伝えるとともに、受講した学問分野の考え方や手法を体験できる内容としており、併せて当該短期大学の特色や学科等を紹介するような科目をテーマとして、年度ごとに各学科内で検討の上、講座内容及び担当教員を決定している。また、受講者に対しては修了証を交付し、授業に関するアンケートを実施している。

〔社会人講座〕

当該短期大学から、平成17年度には4講座、平成18年度には4講座、平成19年度には3講座を実施している。

平成19年度には「韓国の文化とグラフィック・デザインの魅力」（4回シリーズ）、「シルクロードの仏教美術～インドから日本へ～」(5回シリーズ)を2人の教員が担当している。

〔連携公開講座〕

平成19年度には、「秋田の元気力講座」に「デザインは国境のない言葉ー日韓交流活動を通じてー」を開講して教員1人が担当している。

これらのことから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

B-1-③ 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

公開講座の講座数及び受講人数は、平成17年度7講座174人、平成18年度6講座177人、平成19年度10講座348人である。

市民講演会の講演数及び受講人数は、平成17年度6講演785人、平成18年度3講演350人、平成19年度1講演120人である。

ももさだアートスクール等の講座数及び受講人数は、平成17年度22講座227人、平成18年度22講座213人、平成19年度10講座43人である。

高大連携授業、社会人講座及び連携公開講座の講座数及び受講人数を見ると、高大連携授業は、平成17年度3講座59人、平成18年度3講座81人、平成19年度4講座75人であり、社会人講座は、平成17年度4講座33人、平成18年度4講座39人、平成19年度3講座58人である。また、連携公開講座は、平成17年度2講座144人、平成18年度1講座78人、平成19年度1講座119人である。

平成19年度に実施した公開講座の受講者は、男性3割、女性7割、年齢は10歳代から60歳代以上まで、職業は学生、主婦、無職、会社員、公務員、自営業等であり、受講者にはアンケートを実施している。その結果によれば、講座の内容は「とてもよかった」、「よかった」合わせて89.9%、会場施設の利用も「とても利用しやすかった」、「利用しやすかった」合わせて68.8%である。また、平成19年度前期及び後期に実施されたももさだアートスクールのアンケート結果においても、「楽しかった」とのコメントが多く、後期のアンケート結果では23人中21人が、講座の内容について「大満足」、また、教え方について「大変

分かりやすい」と回答している。

これらのことから、活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されており、活動の成果が上がっていると判断する。

B-1-④ 改善のための取組が行われているか。

平成18年度末に、平成19年度からの専門委員会の改編を行い、公開講座の所管を教務委員会から大学開放センター運営委員会に変更している。大学開放センター運営委員会は、公開講座の基本方針を再考し、従前の単年度計画を3か年の開講計画に改め、全教員が参加し、講義内容（実技系・講義系）の適正配分を考慮することとして、平成19年度より開講した結果、平成19年度10人、平成20年度12人と参加教員が増えている。

ももさだアートスクールについては、アンケート結果等を基に、平成20年度から開講時期の変更、託児サービスの実施、開催要望の高い講座の導入等の改善を図っている。

高大連携授業については、従来大学・短期大学等が足並みをそろえ、高校生にとっては交通の便が良い秋田駅付近の会場で実施していたが、当該短期大学独自の美術系の特色を活かすため、平成19年度から一部の科目に実習系の授業を取り入れ、当該短期大学キャンパスを会場に実施している。また、同様に平成19年度からは、高校生が受講しやすい科目構成とするため、対象をある程度絞り込み、基本的に前期はその年の受験生となる3年生を対象に、後期は1、2年生を対象にしている。

これらのことから、改善のための取組が行われていると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

【優れた点】

- 当該短期大学の個性に富んだ機能を広く市民に提供し、多様化する生涯学習ニーズに対応するため、大学開放センター「アトリエももさだ」を設置するとともに、公開講座、市民講演会、ももさだアートスクール等を開催し、地域に多様な教育サービスを提供している。

<参 考>

i 現況及び特徴（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）

1 現況

(1) 短期大学名 秋田公立美術工芸短期大学

(2) 所在地 秋田市新屋大川町 12 番 3 号

(3) 学科等の構成

学 科：工芸美術学科，産業デザイン学科

専攻科：工芸美術専攻，産業デザイン専攻

(4) 学生数及び教員数（平成 20 年 5 月 1 日現在）

学 科：工芸美術学科（131 名）

産業デザイン学科（191 名）

専攻科：工芸美術専攻（8 名）

産業デザイン専攻（16 名）

専任教員数：工芸美術学科（13 名）

産業デザイン学科（15 名）

2 特徴

(1) 概況

本学は、平成 7 年（1995 年）に秋田市を設置主体とし、周辺市町村（当時 9 町 1 村）からの運営基金支援を得て設立された。急速な技術革新による高度情報化社会への移行とともに、産業構造そのものの質的転換が求められるようになっていた。一方、秋田県や秋田市においては、高学歴志向による若者の県外流出や目前に迫っている少子高齢化対策も重大な懸案事項となっていた。設置者である秋田市では、地域活性化のための対策として地場産業等を含めた産業の振興と電子テクノロジーの活用による新規事業の開拓等に資する高等教育の整備・充実が検討されていた。以上の様な背景の中で、本学は、地域産業に根ざし美術工芸の技術者を 40 年間にわたり養成してきた「秋田市立美術工芸専門学校」の専門課程を発展的に改組し、新たに「秋田公立美術工芸短期大学」として設置した。なお、母体となった旧市立美術工芸専門学校を附属高等学院として併設していることも大きな特徴である。旧市立美術工芸専門学校は、昭和 27 年、秋田市の工芸産業支援を目的に創立され、改組後の附属高等学院を合わせると創立 50 年余の歴史を有する。

本学は、東北地域における唯一の公立の美術系高等教育機関である。各県の国公立大学においては、旧教育学部系の美術教育は実施されているが、美術・工芸・デザイン分野に特化した高等教育機関は他にない。したがって、秋田市が主体となる公立短期大学にもかかわらず、東北・北海道出身の学生も多く在籍し、近年は西日本からの入学者も増加しており、県外の学生が学生総数の半数を超える状況である。

開学 14 年目を迎え、卒業生は約 1,800 名に及ぶ。

卒業後の進路については、本学の特性から他大学との

比較は困難なものがあるが、就職希望者の就職率は例年 90%を超えている。しかし、地元企業の業績低迷もあり、地域への定着は芳しくなく、多くが県外への就職となっているのが実情である。また、進路において特徴的な傾向は、4 年制大学への編入志望者の増加である。これは、少子化による大学全入時代を迎えて、特に、私立 4 年制大学の受け入れ姿勢の変化とも呼応していると考えられる。

(2) 教育の特色

本学は、美術・工芸・デザイン分野に特化した短期大学であり、工芸美術・産業デザインの 2 学科及び専攻科を設置している。各学科は、それぞれの設置目的、教育目標、手法、使用素材の種類などにより、さらに専門のコース（工芸美術学科）及び分野（産業デザイン学科）に細分化している。

工芸美術学科は、木材工芸コース、漆工芸コース、金属工芸コース・鋳金、金属工芸コース・彫金、染織コース・染色、染織コース・織、窯芸コース・陶芸、窯芸コース・ガラス、絵画コースの 9 コースを開設している。

産業デザイン学科は、グラフィックデザイン、パッケージデザイン、映像デザイン、ウェブデザイン、平面構成、イラストレーション、プロダクトデザイン、建築・インテリアデザイン、建築史・意匠、デザイン計画、公共デザインの 11 専門分野を開設している。

専攻科は、工芸美術専攻と産業デザイン専攻の 2 専攻を開設して、各領域における、高度な専門の知識・技術の教育を行っている。両専攻の開設分野は、学科と同様である。

公立の短期大学で、このような広範な美術・工芸・デザインの専門分野を開設しているのは、大きな特徴といえる。

(3) 地域貢献

本学は、平成 8 年、地域に開かれた大学を実現するため、地域産業の活性化、生涯学習の振興、文化向上を目的に、大学開放センター「アトリエももさだ」を開設した。大学開放センターは、地域の生涯学習の拠点として、美術・工芸・デザイン分野の実技等体験学習施設であるとともに、本学の知的財産を広く地域住民に還元する機能を持つ。美術系大学が他にない状況から、多くの要望が寄せられており、大学開放センター及び関連機関である「秋田学術振興財団」を介して様々な形で地域貢献を行っている。

事業内容として、受託研究、公開講座、アートスクール、市民講演会等を行っている。

ii 目的（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）

1 設立の目的及び趣旨

平成6年4月、秋田市は、秋田公立美術工芸短期大学設置認可を文部省（現文部科学省）に申請した。設置認可申請書中「1. 設置する大学等の概要を記載した書類」において、目的として「教養を高めるとともに、実際に必要な学芸を教授研究し、生涯学習の振興、文化向上と産業の発展に貢献しうる教養と識見、高い技術水準を備えた人材を育成することを目的とする」を掲げている。

同じく、「2. 大学等設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類」において、I 設置の趣旨として、「今日、我が国では、高齢化、国際化、技術革新、情報化、価値観の多様化、経済のソフト化・サービス化が進展し、本市を取り巻く情勢も大きく変化してきている。本市がこのような時代の変化に、フレキシブルに対応し、活力ある地域社会を形成するためには、人間性が豊かで創造性に富み、総合的、弾力的に考える力を持ち、それぞれの分野で高い技術水準を備えた人材の育成が重要な課題となっている。また、多様化、高度化する生涯学習への対応や、地域活性及び人材や技術の地域間格差是正のため、地方における高等教育の整備・充実が強く求められている。このような状況に対応し、秋田市は、全国的にも例のない、地域産業に根ざした美術工芸の技術者を40年間養成している秋田市立美術工芸専門学校の専門課程を発展的に改組し、伝統産業の振興及び産業の活性化に寄与する人材の育成を主眼とする秋田公立美術工芸短期大学を設置する。」と設置の趣旨を述べている。

設置については、秋田公立美術工芸短期大学条例第1条に「秋田公立美術工芸短期大学は、上記目的のため、学校教育法第1条に規定する大学として秋田市が近隣市町村とともに平成7年4月に秋田市西部の新屋大川町の旧秋田市立美術工芸専門学校の隣接する地に設置したものである。」と、明記している。

2 目的

本学の目的は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、「広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、創造性豊かな人間性を育成するとともに、職業人として高い技術水準を備えた人材育成し、広く地域に開かれた大学として、産業の発展に貢献する」と定めている。

これに沿い、工芸美術学科及び産業デザイン学科を設置し、さらに、より高度な専門教育を実践するため専攻科を設置している。

また、各学科、専攻科の教育目標を次のとおり定めている。

●工芸美術学科の教育目標

- ① 美術工芸の知識と技術を身につけ、創造性に満ちた個性豊かな芸術家の育成を目指します。
- ② 社会生活における美術工芸の役割を認識し、芸術文化の社会浸透を担う人の育成を目指します。

●産業デザイン学科の教育目標

- ① デザインの基礎的な知識と表現技術を身につけ、自ら進んでデザインを探究し、独自の世界を開拓するデザイナーの育成を目指します。
- ② 共感を生むデザインで、地域や産業を元気にする人材の育成を目指します。

●専攻科の教育目標

美術・工芸・デザイン分野の高度な専門知識及び技術を教授し、優れた芸術家・デザイナーの育成を目指す。次に、本学の地域貢献に係る目的として「広く地域に開かれた大学として、産業の発展に貢献する」として、地域産業の活性化、生涯学習の振興、文化向上を目的に、大学開放センター及び附属図書館を設置し活動している。特に大学開放センターの活動は、美術系大学の特色を生かしたものである。

iii 選択的評価事項に係る目的（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）

選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本学の教育理念・目的は学則に以下の記されている。

本学は、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、創造性豊かな人間性を育成するとともに、職業人として高い能力を備えた人材を育成し、広く地域に開かれた大学として、産業の発展に貢献することを目的とする。

（秋田公立美術工芸短期大学学則第1条）

「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的については、上記条文中「広く地域に開かれた大学として、産業の発展に貢献することを目的とする。」と表記している。

これら目的達成のため、諸規程等を定め、正規の課程の学生以外に対する教育活動を実施している。

目的に係る規程等は、以下のとおりである。

- ・ 秋田公立美術工芸短期大学条例（設置）第1条，（入学検定料）第4条，（大学開放センター）第7条（平成6年条例第25号）（資料B-1）
- ・ 秋田公立美術工芸短期大学条例施行規則（研究生等）第3条，（授業料の納付）第7条（平成6年規則第32号）（資料B-2）
- ・ 秋田公立美術工芸短期大学学則（目的）第1条，（附属図書館）第3条，（大学開放センター）第4条，（科目等履修生）第49条，（聴講生）第50条，（研究生）第51条，（外国人留学生）第52条，（公開講座）第56条（平成7年大学規程第1号）（資料B-3）

iv 自己評価の概要（対象短期大学から提出された自己評価書から転載）

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

本学では、市民に開かれた大学を実現するため、学内での教育活動とともに秋田県という地域での美術工芸に関わる文化・産業支援の拠点あるいは中心的な役割を担っている。地域に開かれた大学づくりを通じて、積極的に地域社会に貢献することを目的とし、大学開放センター「アトリエももさだ」を設置、美術系短期大学として特色に溢れ本学の機能を広く市民に還元し、多様化する生涯学習ニーズに対応している。今後とも、講座アンケートの意見を基に、計画・実施する方針である。ももさだアートスクール等に関しては、地域から空き店舗利用による開催を望む声も聞かれる。一部実験的な取組みが行われており、地域の教育サービスの定着と活性化へのつながりが形成されつつある。

v 自己評価書等

対象短期大学から提出された自己評価書本文については、機構ウェブサイト（評価事業）に掲載しておりますのでご参照下さい。

なお、自己評価書の別添として提出された資料の一覧については、次ページ以降の「vi 自己評価書に添付された資料一覧」をご参照下さい。

機構ホームページ <http://www.niad.ac.jp/>

自己評価書 http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou200903/tandai/jiko_bijutsukougei_t_s200903.pdf

vi 自己評価書に添付された資料一覧

事 項	資料番号	根拠資料・データ名
選択的 評価事 項B	B-1	秋田公立美術工芸短期大学条例
	B-2	秋田公立美術工芸短期大学条例施行規則
	B-3	秋田公立美術工芸短期大学学則
	B-4	秋田公立美術工芸短期大学科目等履修生規程
	B-5	秋田公立美術工芸短期大学聴講生規程
	B-6	秋田公立美術工芸短期大学研究生規程
	B-7	秋田公立美術工芸短期大学外国人留学生規程
	B-8	秋田公立美術工芸短期大学附属図書館運営規程
	B-9	秋田公立美術工芸短期大学開放センター管理運営規則
	B-10	秋田公立美術工芸短期大学施設管理規程
	B-11	アトリエももさだリーフレット
	B-12	秋田学術振興財団の概要
	B-13	大学コンソーシアムあきた事業報告
	B-14	20年度公開講座の概要
	B-15	20年度前期ももさだアートスクールの概要
	B-16	市民講演会案内
	B-17	19年度公開講座アンケート結果
	B-18	公開講座の開講予定